けるに、かたの如くの効驗ありて、おひ〳〵繁昌しいでけるよし、又そのかみ此ところの家とては、今の湯本新左衞門が先祖と、わが家ばかりなりけるを、此温泉のわき出ける場所新左衞門が土地なりけるをもて、今にかれを湯本とし、年々元日にはわが家より入初をする作法に候を、かの證據と申傳侍る、わが家十三代このかたの事は、いさゝかの由緒も候が、以前の儀は、湯本にもわが家にも、その外にさだかなる書付も候はず、さて又この温泉の効驗のいちじるき事は、あげてかぞへがたきうちに、既に去年の事にて、是より四里ばかり奥なる福原と申在所に、次郎と申百姓十八九にも候はん、風毒をやみけるのち、足のすぢ攣急してのびざるに、同村の人あはれみ、牛にのせてわが家へつれ參り入湯せしむるに、四五日をへて足のび、杖にて温泉へ通ふほどになり、おひ〳〵全快して、つひに歩行にて山道を踏て歸り候が、ことしもその禮にとてまゐり候、その外まのあたり奇妙なる事ども、常々見るゆゑ、醫心も候はゞかきつけおき候はんに、短才不文くちおしくさふらふといへり、

美作國勝間田温泉

〔類聚名物考地理三十五〕かつまたのみゆ　美作　壬生忠見集

藻鹽草に美作と有、類字名所に出さず、勝間田池のみ有、その下に云、八雲之御抄、辨範兼卿五代集歌枕下總國云々、仍當國載之、清輔抄美作云々、彼國有勝間田郡、其所歟、可決之、　今案に、八雲御抄に此湯なし、

〔夫木和歌抄二十六温泉〕家集、美濃、〇美濃恐美作誤かつまたのみゆ、勝田、　忠見

とのやまや道のかぎりとおもへどもかつまたのみゆとほきなりけり

紀伊國牟婁温泉

〔釋日本紀十四述義十〕牟婁温湯　紀伊國牟婁郡歟

〔類聚名物考地理三十五〕武漏温泉

むろのいでゆ、紀伊、武漏は、和名抄に、紀伊國牟婁郡牟呂と有り、又郷名の内にて、牟婁無呂と有り、